

COUNT DOWN 開校まであと 787日

校長閑話「七中の歴史を振り返って」



昭和62年(1987)3月18日(水)午前10時から本校体育館において新校舎竣工記念式典が開催されました。当日は市長、県会議員、市会議員、教育委員長、地元高校の校長等の来賓が招待され、約百人ほどの出席者がいたそうです。

着工が昭和61年4月。約1年の工期で完成しました。昭和61年と言えば、旧国鉄がJRとして分割民営化、映画ではトップガンがヒットし、テレビでは独眼竜正宗や白虎隊などの歴史ドラマにブームが起きた時でした。また当時はショルダーフォンやポケベルが流行ったバブル景気の真っ只中でもありました。

さて、この新校舎では2月初旬から新校舎で授業がスタートしたそうです。3月16日の卒業式で巣立って行った、48人の3年生たち(現在47歳)はわずか1か月余りでしたが、新校舎での学校生活を送ることができました。

1月を振り返って

- 7日には始業式を実施し、生徒の皆さんは新たな決意を胸に新学期を迎えました。元気な姿、そして笑顔で再び学校が始まることに安堵をしています。さて、3年生はいよいよ入学試験の始まった月でもあります。16日に始まった私立高校の入学試験を皮切りに、2月の下旬まで続きます。体調を万全にし、ベストコンディションで臨んでほしいものです。
 - 22日には銚子警察署の協力連携により、不審者対応訓練を実施しました。警察官の方には不審者役は担って頂きましたが、演技の迫力にやや圧倒されたものの、対応する職員や生徒共に落ち着いて行動ができました。訓練後には、体育館にて警察官の方から不審者に遭遇した際の行動について、「いかのおすし」を例に説明して頂きました。
 - 31日には入学説明会を実施しました。今回はインフルエンザの流行により、保護者の方々だけへの説明となりました。新入生は9名の予定です。2年間の短い在籍期間となりますが、新たな仲間を本校の生徒、職員と共に責任をもって精一杯面倒を見させていただきます。そして、閉校までの間に共に本校の確かな歴史、記憶に残るレガシー(大いなる遺産)を築き上げていきましょう。
- 1月は「いく月」2月は「逃げる月」そして3月は「去る月」と言われます。3学期こそ1日1日を大事に過ごしていきたいものです。

インドはい〜んど! ? ①



タージ・マハルについて
タージ・マハルはインドの首都ニューデリーから電車で3時間程のアグラという小さな町にあります。このタージマハルはムガル帝国第5代皇帝のシャー・ジャハーンが1681年に死去した愛妃ムムターズ・マハルのために建設した総大理石の墓廟です。第5代皇帝のシャー・ジャハーンはチンギスハーンの末柄とも言われています。また、1983年にはユネスコの世界文化遺産に登録されました。この、タージマハルが最近危機に瀕しています。度重なる酸性雨の影響から、大理石は溶解して、過度な地下水の汲み上げによる地盤沈下により建物自体に傾きが発生しているそうです。私が日本人学校に赴任していた時に、修学旅行で2度生徒を引率しましたが、その当時はまだ白亜の輝きを放っていました。このタージマハルには街の中心から、環境保護のため電気自動車でしか行けませんが、深刻な環境汚染は大変残念に思います。



